

ヘッドライン

- | | |
|--|-------------------------------|
| 1. 第25回学術研究大会のご案内と企画分科会、分科会報告募集について | 5. 第24回学術研究大会開催報告 |
| 2. 2018/2019年度北東アジア学会優秀論文賞・学生奨励賞募集について | 6. 第9期第2回常任理事会(2018年4月21日)議事 |
| 3. 2017/2018年度北東アジア学会優秀論文賞・学生奨励賞授与 | 7. 第9期第2回理事会(2018年7月28日)議事 |
| 4. 関西地域研究会、西日本研究会開催予定 | 8. 関西地域研究会、ワークショップ、シンポジウム開催報告 |
| | 9. 『北東アジア地域研究』投稿規定・執筆要領について |

1. 第25回学術研究大会のご案内と企画分科会、分科会報告募集について

第25回学術研究大会は信州大学(長野県松本市)で2019年9月28日~29日に開催します(共通論題「朝鮮半島情勢と北東アジア域内連携の緊密化」)。企画分科会の提案、自由論題報告を募集いたしますので、下記開催予定、募集要項を参照の上、奮ってお申込みください。

募集要領: 報告申込用紙(学会HPに近日掲載)に必要な事項をご記入のうえ、奮ってお申込みください。

2019年4月15日(月): 自由論題の報告、企画分科会の提案の申込締切

氏名・所属・論題・希望コメンテーター(2名以内)、

報告・企画要旨(800字以内)

宛先: 北東アジア学会第25回学術研究大会実行委員会 conference2019@anears.net

実行委員会、常任理事会を経て、申込確認結果を連絡する予定です。

2019年8月31日(土): ①予稿集原稿(報告要旨)の締切、②報告論文(フルペーパー)の座長、討論者への送付締切。

書式や字数等については、HP及び会員メール(近日)にてご確認ください。

2. 北東アジア学会優秀論文賞および学生奨励賞の募集について

●「北東アジア学会優秀論文賞」は、若手研究者育成を目的として、学会設立10周年を記念して設けられました。今(2018/19)年度も下記の日程等で、推薦を受け付けます。

被推薦対象論文: 『北東アジア地域研究』第25号をはじめとする2018年6月1日から2019年5月31日までに公刊された査読付単著論文。

被推薦対象者: 当該論文発表時に40歳程度まで(大学院在学中の者はこの年齢規定の限りではない)の学会員(会費を完納していること)。

推薦方法: 2019年6月30日(当日消印有効)までに推薦状(指定様式)とともに、当該論文(紙媒体の場合は現物とコピー計5部、電子メールの場合はPDFファイルで1部)を添えて事務局に提出。

表彰: 審査を経て、表彰。

副賞: 韓国東北亜経済学会(2020年2月予定)での研究報告(航空運賃等の費用5万円を上限として学会が負担する)。

優秀論文賞選考規定

<http://www.anears.net/jm/ronbunsho.pdf>

優秀論文賞推薦状様式

<http://anears.net/jm/form07.doc>

<http://anears.net/jm/form07.pdf>

●本学会では、各年度に提出された卒業論文等について、特に優秀なものを「北東アジア学会学生奨励賞」として表彰しています。

今年度も、2019年6月30日(当日消印有効)締切で推薦を募集します。推薦をされたい方は、事務局に「北東アジア学会学生奨励賞推薦状」をご請求の上、推薦する論文1部を添付して、事務局にお送りください。

詳細・問い合わせ先: 学会事務局

jimukyoku@anears.net

〒525-8577

3. 2017/2018年度北東アジア学会優秀論文賞・学生奨励賞授与

●下記2論文に2017/18年度北東アジア学会優秀論文賞が授与されました。
 縄倉晶雄「自由貿易体制下の韓国における国内農業保護政策の政治的背景—間接ロビイングの視点から—」
 (『北東アジア地域研究』第24号)
 李晨「中国経済の減速スピードに関する新推計—マル

クス派最適成長モデルによる成長率推計改善提案—」
 (同)
 ●2017/18年度北東アジア学会学生奨励賞が授与されました。
 秦 雄一「2016年台湾「総統」選挙—地域別年間所得及び年齢、性別、学歴から見た仮説的検証—」

4. 関西地域研究会、西日本研究会開催予定

●2019年第1回関西地域研究会
 日時：2019年4月20日(土)13:30~17:30
 場所：大阪教育大学天王寺キャンパスで開催。
 報告者等についてはMLやHPでお知らせします。
 研究会前に常任理事会を開催予定です常任理事の方はご予約ください。
 ●2019年西日本地域研究会の開催について
 日時：2019年5月26日(日)

場所：立命館アジア太平洋大学(大分県別府市)
 2019年5月26日(日)10:00~17:30
 共催：北東アジア学会、立命館大学アジア・日本研究所、立命館大学コリア研究センター
 午前(10:00~12:00)自由論題
 午後(14:00~17:30)シンポジウム
 自由論題報告を募集します(締切4月中旬)。詳細はMLやHPでお知らせします。

5. 第24回学術研究大会開催報告

2018年9月29日に第24回学術研究大会が立命館大学びわこ・くさつキャンパスで開催されました。大会2日目の9月30日は残念ながら台風接近に伴う交通機関の運行停止のため開催を中止しました。2日目に予定されていた報告については、9月30日までのフルペーパーの提出をもって文書報告として認める

ことを第9期第3回理事会(2018年9月29日10:00~)において決定し、HP等にて周知いたしました。
 大会一日目の共通論題(立命館大学経済学部70周年記念と共催)は50名の方の参加を得て、活発な議論が行われました。シンポジウム(報告・討論)、分科会・特別セッション(論文発表)は以下の通りです。

第24回北東アジア学会学術研究大会「北東アジア地域協力の新段階構築に向けて」 立命館大学びわこ草津キャンパス「エポック立命21」

2018年9月29日・土曜日		第9期第3回理事会	
10:00-12:00		シンポジウム「日中関係の新段階構築に向けて—北東アジアの中で—」エポック立命21・ホール(司会:松野周治)	
13:30-17:30 エポック立命21・ホール		報告 1. 沈海涛(吉林大学東北アジア研究院教授)「時代変化にふさわしい日中関係の再構築に向けて—国際政治学の出発点から—」 2. 権哲男(延辺大学経済管理学院教授)「北東アジア地域経済協力について—朝鮮半島の新しい変化を踏まえて」 3. 田村曉彦(政策研究大学院大学教授)「過渡期の国際政治体制下での日中間の構造的協力の可能性」 コメント 1. 松村史紀(宇都宮大学国際学部) 2. 中戸祐夫(立命館大学国際関係学部) 3. 唱新(福井県立大学経済学部) パネルディスカッション—一般討論	
18:00-20:00		懇親・交流会	
分科会・特別セッション(台風接近のため中止。9月30日までに提出された論文による発表。)			
分科会A (北東アジア国際関係と中国)	大西広 三村光弘 李紅梅	慶應大学 環日本海経済研究所 吉林大学	覇権交替の非協力ゲーム-中国覇権への転換期をどう表現するか- 一帯一路の現状と北東アジアへの拡大 クロスボーダー・サブリージョン協力に関する一考察—中国東北地域を中心に 欠損民主主義の視点から捉えた韓国の政党
分科会B(韓国政治)	縄倉晶雄 馬場一樹	日本大学 立命館大学(院)	2002年小泉総理・ケリー国務次官補2つの訪朝の連関性—2レベル・ゲームによる日朝交渉モデルの検討—
分科会C(企画:北東アジアの戦後歴史認識の検証—満洲・台湾・日本の植民地問題の比較を中心に)	南誠 葉幸孝 野口真広	長崎大学 早稲田大学(院) 早稲田大学	満洲の歴史記憶に関する日中比較研究の一試み:中国残留日本人を手がかりとして 台湾における漢奸裁判と台湾社会の反応—皇民奉公会を中心に 戦後直後における日本人の植民地記憶—植民地史像の再検討の一例として—
分科会D(環境)	龍世祥 北川秀樹 横田 将志	富山大学 龍谷大学 日本大学	循環社会の視点からみた中国之道—グリーンイノベーションと循環型分業をキーワードに— 習近平政権下の環境法政策の進展と課題 北東アジアの環境協力の強化と非サブリージョン・アクター——東南アジアからの一考察
分科会E(特別セッション1「ロシアと朝鮮半島問題:現状と展望」人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「北東アジア地域研究」北海道大学旭	三村光弘 加藤美保子 堀江典生	環日本海経済研究所 北海道大学 富山大学	朝鮮半島問題と周辺国の関与 プーチン時代の対北朝鮮政策:軌跡と展望 ロシアの東方政策と朝鮮半島問題
分科会F(韓国・朝鮮、北東アジア)	金ジョンイン/イム・ヒャンオク 朴スンチャン/ユン・ジョヨン	中央大学校/同(院) 龍仁大学校/韓南大学校	南北関係の改善と未来の経済協力方策(韓国語) 韓中FTA産薬同地間の示範事業の妥当性研究(韓国語)
総会(台風接近により中止。10月10日~10月20日まで会員MLにて審議し、承認された。)			
分科会H(東アジア)	陳淑琳・尹清洙 李 晨	長崎県立大学 慶応義塾大学経済学研究科	IASBにおける東アジア諸国の影響力に関する数量分析—IFRS第15号を事例として Impact of labor force and technological progress on China's economic growth
分科会I 北東アジア社会の個性(固有性)と交流	韓学珍/李勇徹/鈴木純 金光林 藤藤久美子	韓南大学/中部大学/忠南大学 新潟産業大学 和歌山大学	韓日二国間における観光イメーজ比較による両国の観光競争力向上の為の研究 東アジアにおける族譜の過去と現在 ロシアにおける企業会計と現代の課題

6. 第2回常任理事会(2018年4月21日)議事録

北東アジア学会第9期第2回常任理事会議事録

日時:2018年4月21日(土)13:00~15:00

場所:立命館大学朱雀キャンパス2F 218教室

出席:林、坂田、松野、三村、高屋、川口、岡本、金、堀内、櫛谷、堀江

0 議事録承認→承認

I 報告事項

1. 事務局

2. 地域研究会

a. 2018年第1回関西地域研究会

日時:2018年1月20日(土)15:30~17:30

場所:立命館大学朱雀キャンパス218教室

報告:王文略(西北農林科技大学経済管理学院研究生)“Study on Poverty Reduction Effect of Ecomigration from the Perspective of Risk and Opportunity: Based on Panel Data of 1032 Peasant Households in Southern Shaanxi, China”
討論:北川秀樹(龍谷大学政策科学部教授) / 金早雪(信州大学)「韓国の雇用福祉連携政策について」討論:文京洙(立命館大学)

b. 北海道地域研究会

ロシア経済共同セミナー「日ロの経済関係は進展したのか~安倍・プーチン首脳会談後の日ロビジネスを検証する~」(2018年5月9日、北海道商科大学)主 催:NPO 法人ロシア極東研、北大スラブ・ユーラシア研究センター、北海商科大学
北海道国際交流・協力総合センター、北東アジア学会、後援:北海道、札幌商工会議所、北海道新聞など。堀内賢志常任理事が報告。高田喜博理事がディスカッション司会。

c. 2018年第2回関西地域研究会

日時:2018年4月21日(土)15:30~17:30

場所:立命館大学朱雀キャンパス218教室

第1報告:生駒智一(立命館大学国際関係研究科)「韓国における金鍾泌の政治的役割—三金時代(1988~2003)の分析」討論:川口智彦(日本大学政国際関係学部教授) / 第2報告:朴光駿(佛教大学社会福祉学部教授)「韓国のより寛大な貧困観の歴史文化的起源を探る:日本との比較」討論:金早雪(信州大学経済学部/学術研究院社会科学系教授)

d. その他

3. 編集委員会

a. 和雑誌編集委員会 <金早雪><資料>: 編集要綱等改定案

b. 洋雑誌編集委員会 <堀内><資料>: 和雑誌への統合案

4. 会計 <岡本><資料>

a. 当座預金出納

b. 普通預金・定期預金出納

5. 学術会議等交流事業

- ##### a. 2018年3月31日「人文・社会科学系男女共同参画推進学協会連絡会」(通称ギースGEAHSS)の運営委員会、並びにシンポジウム
- ##### b. GEAHSS 申込書とHP掲載についての連絡の取り扱い
- ##### c. 地域研究学会連絡協議会(JCASA)ニューズレター第12号(2018年4月発行):17年活動及び18年研究大会情報の掲載 (<http://www.jcas.jp/asjcasa/jcasa-newsletter.html>)

6. 国際交流事業

- ##### a. 韓国東北亜細亜学会参加報告<川口><資料> 2018年大会への派遣:2月1日~2日(江原大学)、松野周治・会長(報告・総会および懇親会挨拶)、川口智彦・事務局次長(報告)、吉田央・会員(報告)
- ##### b. 中国延辺大学(経済管理学院・東北亜細亜研究院) 経済管理学院権哲男院長に大会報告依頼・承諾 東北亜細亜研究院金石柱院長に昨年10月協議備忘録を送付(返事無)

7. その他

II 協議事項

- #### 1. 入会:劉カン(北海商科大学)、北川秀樹(龍谷大学)、退会(金子利喜男会員、酒井富夫会員、前田幹博会員)、会員種別変更(なし)→承認。
- #### 2. 2017/18年度学会優秀論文賞、学生奨励賞の募集について→6月30日締め切りで募集
- #### 3. 韓国東北亜細亜経済学会との交流について→報告事項6.A
- #### 4. 新たな国際学術交流協定締結事業について→松野大会実行委員長より第24回大会シンポジウムでの沈海濤・吉林大学東北アジア研究院教授(立命館大学海外研究者招聘経費を利用)、権哲男・延辺大学経済管理学院教授・院長の招聘を提案、承認。
- #### 5. 第24回研究大会(2018年9月29日~30日、立命館大学BKC)について:準備状況、分科会報告募集結果、追加募集・企画分科会組織、海外ゲスト歓迎会など→松野大会実行委員長より説明、承認。

- a. 北東アジア学会第24回学術研究大会・立命館大学経済学部設立70周年記念シンポジウム「日中関係の新段階構築に向けて―北東アジアの中で―」
- ① 日時：2018年9月29日（土）13：30～17：30
 - ② 場所：立命館大学びわこ草津キャンパス（滋賀県大津市）「エポック立命21」ホール
 - ③ 主催：北東アジア学会・立命館大学経済学部
 - ④ 報告（各30分）：
 - 沈海涛（吉林大学東北アジア研究院教授）
「日中関係の再構築に向けて―政治学の立場から―」（仮）
 - 権哲男（延辺大学経済管理学院教授・院長）
「北東アジア地域経済協力について―朝鮮も視野に入れて―」（仮）
 - 田村暁彦（政策研究大学院大学教授）
「日中経済関係の新段階―東アジア地域協力の中で―」（仮）
 - ⑤ 討論（予定討論各15分、一般討論）
予定討論者：
 - ⑥ 司会：
 - ⑦ 使用言語：日本語
 - ⑧ 報告テーマおよび要旨（800字程度、6月末日締切）
 - ⑨ 報告論文（A4版・横書き、8,000字程度、8月末日締切）
 - ⑩ 経費：学会大会経費（延辺大学・権院長招聘経費、懇親会費（招待分）、報告集印刷代、休憩室準備等）、立命館大学補助金（吉林大学・沈教授招聘経費）、立命館大学経済学会（田村教授招聘経費、立て看板等広報費）。
 - ⑪ 韓国東北亜細亜学会3名、権・沈両先生のホテル
アーバンホテル南草津 9月28日～3泊予約
 - ⑫ シンポジウム報告及び全体概要（まとめ）の学会誌掲載についての検討
- b. 自由論題・企画分科会
分科会報告応募とプログラム案＜資料＞
大西広「覇権交替の非協力ゲーム - 中国覇権への転換期をどう表現するか -」
陳淑琳・尹清洙「IASBにおける東アジア諸国の影響力に関する数量分析～IFRS第15号を実例として」
縄倉晶雄「欠損民主主義の視点から捉えた韓国の政党」
- 三村光弘「一帯一路の現状と北東アジアへの拡大」
李紅梅「クロスボーダー・サブリージョン協力に関する一考察 - 中国東北地域を中心に」
龍世祥「循環社会の視角から見た中国之道 - グリーンイノベーションと循環型分業をキーワードに -」
馬場一樹「2002年小泉訪朝とケリー米 국무次官補訪朝の関係（仮）」
鈴木純他「日韓における双務観光から見たイメージ分析」
生駒智一「三金時代における金鍾泌の存在意義～接着剤としての金鍾泌」
- c. 追加募集と企画分科会の組織について→企画分科会組織（朝鮮半島問題、ロシア）を依頼（中戸理事、堀江常任理事）するとともに、自由論題報告および企画分科会の再募集を決定（締切：5月20日）、「つうしん」第51号（2018.4.30.）およびHPで告知することとした。
- d. 前日（28日・金曜）の海外ゲスト（韓国、中国）歓迎会（会長・副会長・事務局長・同次長他有志。理事会メンバーには案内。ゲストの費用は大会経費から支出。ゲストの到着スケジュール次第では、不開催。）
6. 「つうしん」発行予定
第50号（2018年月）：
総会報告・予決算。2017年大会報告。新役員（名簿と重複すれば不要）。
第51号（2018年4月）
2018年大会開催要綱（シンポジウムなど）、学生奨励賞・優秀論文賞募集、地域研究会報告、理事会、常任理事会報告、韓国東北亜細亜学会参加報告、その他
第52号（2018年7月）
2018年大会プログラム、参加申し込みなど。
7. 会議日程 第2回理事会：7月28日（土）（立命館大学BKC）13：00～15：15。
理事会の中で大会会場見学もあわせて実施する。
2018年第3回関西地域研究会を理事会後開催する（15：30～17：30）。
第3回常任理事会：9月30日（日）（同）
8. その他
a. 会あてに寄贈された本の取り扱いについて

7. 第9期第2回理事会（2018年7月28日）議事録

日時：2018年7月28日（日）13:00～15:00
会場：会場：立命館大学びわこ・くさつキャンパス アドセナリオ3階A318

0. 尹明憲理事の訃報
1. 報告事項
 - 1.1. 前回（第1回）理事会の議事録確認【資料1】
 - 1.2. 事務局

- 「つうしん」51号の発行
- 1.3. 第24回学術研究大会プログラム(松野大会実行委員長)【資料2】
- 1.4. 地域研究会
 - 北東アジア学会2018年第3回関西地域研究会
日時:2018年7月28日(土)15:30~17:30
場所:立命館大学びわこ・くさつキャンパス アドセ
ミナリオ A308 教室
報告:峯俊智穂(立命館大学経済学部准教授)
「歴史的観光地における観光振興の取り組みと課題
一和歌山県田辺市を事例として」
討論:林 堅太郎(立命館大学名誉教授)
- 1.5. 学術会議等
 - 「人文・社会科学系男女共同参画推進学協会連絡
会」(通称ギース GEAHSS) 総会について、9月7日
か9月28日で日程の打診あり。6月15日に事務局
メールにて共有。現在のところ参加者なし
 - 日本学術協力財団
 - 地域研究学会連絡協議会(JCASA)
- 1.6. 国際交流事業
- 1.7. 和雑誌編集委員会(金編集委員長)
- 1.8. 英雑誌編集委員会(堀内編集委員長)
- 1.9. 会計報告(【資料3】参照)(岡本会計担当常任理
事)
- 2. 協議事項
 - 2.1. 人事
 - 新入会員の入会:河原昌一郎(福井県立大学)、
佐藤譲(慶應義塾大学)、朴香花(名古屋大学)、
李赫然(立教大学)、アルタンホール(昭和女
子大学)、鄭雅英(立命館大学)→承認
 - 退会希望者:山本雅資会員、熊谷明泰会員、王瑞
会員、文聖姫会員→承認
 - 会員種別変更→承認
 - 院生→一般:藤田法子会員、初野涉会員
 - 一般→海外通信会員:Sun Zhanfang 会員、
成双之会員
 - 2.2. 第25回学術研究大会(2019)開催校について→
当初候補としていた新潟での開催は、新潟県立
大学の新学部開設と合わせ2020年(第26回)が
望ましいため、金早雪常任理事に信州大学での
開催を検討していただくこととした。
 - 2.3. 会誌
 - 会誌統合について(堀内編集委員長)【資料4】→
承認
 - 投稿規定、執筆要綱の一部改正について(金編集
委員長)【資料5】→承認。投稿規定の1.投稿資
格(1)の後ろに「当該年度までの会費を完納し
ていること」を追加(投稿規定については編集委
員会マター)
- 2.4. 優秀論文賞と学生奨励賞→24号の奥付が6月30
日になっているのに伴い、優秀論文賞につい
ては24号掲載論文も対象とすることを松野会長
より提案。これを承認。学生奨励賞の規定につ
いては引き続き探す。当面は優秀論文賞規定を
準用。
 - 応募結果と受理、審査体制について【資料6】
→学生奨励賞1名、優秀論文賞2名の推薦。これ
を受理。優秀論文賞については早急に履歴書・業
績書を提出依頼。学生奨励賞審査体制、優秀論文
賞審査体制を決定。
 - 優秀論文賞および奨励賞の規定改正について【資
料7】→承認。選考規定に会費完納について盛り
込むかは次回理事会にて提案。
- 2.5. 年会費の取り扱いについて→承認
 - 年度途中に入会された方について、どの時点から
年会費の支払い義務を課すのか。会計案「各年度
の会費支払い義務に関し、新規入会者については、
春の常任理事会以前(春の常任理事会を含む)に
入会が承認された場合は、当該年度の会費支払い
義務が発生し、春の常任理事会より後(春の常任
理事会を含まない)に入会が承認された場合は、
次年度から会費支払い義務が発生する」
 - 年度途中に退会された方について、退会された年
度の年会費の支払い義務は、どの時点で退会して
いても課すのか。会計案「冬、春、夏の理事会あ
るいは常任理事会で退会承認がなされた会員に
ついては、退会承認がなされた年度までの会費支
払い義務が生ずる。秋の理事会(総会前日と総会
当日の2回)にて退会承認がなされた会員につ
いては、すでに次年度の会計年度が始まっているも
のの、次年度の年会費支払い義務を課さない
 - 学会誌の送付を受ける資格はどのような会員に
生ずるのか。会計案「学会費の送付を受ける資格
は、その学会誌が発行された年度の年会費支払い
義務がある会員(一般会員・学生会員・優待会員・
賛助会員・特別賛助会員)+名誉会員+雑誌購読
会員において生ずる。年度途中で退会した者につ
いても、その学会誌が発行された年度の年会費支
払い義務があれば当該学会誌の送付を受ける資
格がある。年度途中で入会した者についても、そ
の学会誌が発行された年度の年会費支払い義務
があれば当該学会誌の送付を受ける資格がある。
年会費支払い義務の有無で判断するものであり、
年会費納入状況は考慮しない。」
- 2.6. 「つうしん」第52号の発行について
- 2.7. その他
- 2.8. 次回日程
 - 第9期第3回理事会 2018年9月29日(土)10:
00~12:00

8. 地域研究会、ワークショップ、シンポジウム開催報告

●2018 年第 3 回関西地域研究会

日時：2018 年 7 月 28 日 (土) 15:30~17:30

場所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス アドセ
ミナリオ 308 教室

報告：峯俊智穂 (立命館大学経済学部准教授)「歴史的
観光地における観光振興の取り組みと課題ー和歌山
県田辺市を事例としてー」

討論：林 堅太郎 (立命館大学名誉教授)

●北東アジア学会・立命館大学アジア・日本研究所共 催特別ワークショップ

日時：2018 年 11 月 23 日 (金・祝) 14:40~17:50

場所：立命館大学朱雀キャンパス 217 号室

報告：

宋基榮 (ソン・ギョン、立命館大学非常勤講師)「北朝
鮮におけるスポーツの政治的活用に関する研究ー金
正恩時代を中心にー」

馬場一輝 (立命館大学・院)「2002 年小泉総理・ケリ
ー国務次官補の 2 つの訪朝の連関性ー 2 レベル・ゲー
ムによる日朝交渉モデルの検討ー」

生駒智一 (立命館大学・院)「三金時代における金鍾泌
の存在意義~接着剤としての金鍾泌」

討論：川口智彦 (日本大学)、討論 2：文京洙 (立命館
大学)

第 2 部：「朝鮮半島をめぐる国際関係」(16 時 20 分~
17 時 50 分)

座長 (司会) 文京洙 (立命館大学)

問題提起：中達啓示 (立命館大学)、崔正勲 (立命館大
学)、川口智彦 (日本大学)、今村弘子 (富山大学・
名)

●北東アジア学会関東地域研究会・公開セミナー

日時：2018 年 12 月 2 日 (日) 10:00~13:00 (公開セ
ミナーは 14:00~17:00)

場所：慶應義塾大学三田キャンパス研究棟 1 階 A 会議
室

報告：

秦 雄一 (東レ)「「2016 年台湾「総統」選挙について
の所得階級、年齢、性別、学歴別の投票分析ー」

史 金凱 (創価大学大学院)「中国本土憲法学の生誕と
明治憲法学」

呉 迪 (慶應義塾大学大学院)「「2016 年台湾「総統」
選挙についての所得階級、年齢、性別、学歴別の投票
分析ー」

横田将志 (日本大学大学院)「北東アジアの環境協力の
強化と非リジョン・アクター」

李 晨 (慶應義塾大学大学院)「労働供給変化と技術進

歩を考慮した中国の経済成長に関する新しい予測」

公開セミナー「米朝会談後の北東アジアの国際関係」
14:00-17:00

報告：

佐渡友哲 (日本大学)「中朝国境地域における越境交流
圏の可能性」

大西 広 (慶應義塾大学)「覇権交代論から見た米朝会
談後の国際関係」

川口智彦 (日本大学)「朝鮮半島情勢を見る周辺国研究
者の視点」

繩倉昌雄 (明治大学)「南北会談を可能とした韓国社会
運動ー2016 年ろうそく集会を事例として」

李 乙鎮 (日本大学大学院)「北朝鮮関係変化と在韓脱
北者団体の関係」

●人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「北東アジ ア地域研究」/北東アジア学会連携シンポジウム「北 東アジアの鳴動：朝鮮半島，中露国境地域，蒙中露辺 境」

日時：2019 年 1 月 26 日 (土)、27 日 (日)

場所：富山大学経済学部 7 階大会議室

2019 年 1 月 26 日 (土) 14:00~14:15

開会の辞 遠藤俊郎 (富山大学長)、松野周治 (北東ア
ジア学会長)、堀江典生 (富山大学研究推進機構極東地
域研究センター長)

14:15~16:15 セッション 1 ロシアと朝鮮半島問
題 (学会連携企画)

三村 光弘 (公益財団法人環日本海経済研究所)：朝鮮
半島問題と周辺国の関与

加藤美保子 (北海道大学)：プーチン時代の対北朝鮮政
策：軌跡と展望

堀江典生 (富山大学)：ロシアの東方政策と朝鮮半島問
題

座長：堀江典生 (富山大学)

討論：福原裕二 (島根県立大学) 堀内賢志 (静岡県立
大学) 松野周治 (立命館大学)

16:30~18:30 セッション 2 朝鮮半島問題におけ
る多層的視座 (北大・富山大拠点企画)

福原裕二 (島根県立大学)：北朝鮮の『安全の保障』か
ら見た非核化問題

池 直美 (北海道大学)：『故郷は遠きにありて思うも
の』：脱北者を取り巻く現状と課題

柳 学洙 (東京大学)：北朝鮮経済の『市場化』：現状
と今後の展望

座長：馬 駿 (富山大学)

討論：三村光弘 (公益財団法人環日本海経済研究所)

天野尚樹（山形大学）金 奉吉（富山大学）
19：30～21：00 懇親会（会費実費制）
2019年1月27日（日）
10：00～12：00 セッション3 中露国境地域の新たな可能性（北大拠点企画）
岩下明裕（北海道大学）：ボーダースタディーズにおける中露国境地域の意味
中村正人（『地球の歩き方』編集者）：ボーダーツーリズム：中国東北地方21の国境物語
朱永浩（福島大学）：中露国境貿易の過去と現在
座長：田畑伸一郎（北海道大学）
討論：堀江典生（富山大学）松野周治（立命館大学）
高屋和子（立命館大学）

13：00～15：00 セッション4 蒙中露国境における多民族共生（東北大企画）
広川佐保（新潟大学）：近代モンゴルに暮らした漢人の歴史ー「旅蒙商」から「労働者」そして「蒙古帰僑」へ
サヴェリエフ・イゴリ（名古屋大学）：第一次世界大戦期の在露中国人の越境的空間
藤原克美（大阪大学）：満洲国における百貨店の役割
橘 誠（下関市立大学）：モンゴル国における関税をめぐる露中の「交渉」：20世紀初頭の外交と多民族共生
座長：堀江典生（富山大学）
討論者：岡 洋樹（東北大）
15：00 閉会の辞

9. 『北東アジア地域研究』投稿規定・執筆要領について

理事会での議を経て、2018年9月に、主に下記4点など、一部改訂されました。

- (1) 英文雑誌 FES を統合する。
- (2) 英語論文の分量は7,000語相当以内（図表含む）とし、その他はFESでの規定を踏襲する。
- (3) 研究論文には、日本語要約（500字程度）、キーワード（5つ以内）及び英文サマリー（200語以内）を添付すること。
- (4) 投稿票（A4用紙1枚）の記載事項は以下とする：
 - ①執筆者氏名（※）・所属（※）、連絡先
 - ②原稿の種類（研究論文・研究ノート、書評、資料

紹介等）

③表題（※）

- ④研究論文の投稿前チェック： 1)本文の匿名性、
2) キーワード、3) 要約（日本語 500 字程度）、
4) 本文分量、5) 章節、6) 図表（モノクロ）の番号と凡例表示、7) 文末脚注、8) 参考文献
（※）執筆者氏名・所属と表題（書評では対象著作の著者名と書名）には英字表記も付すこと。

以上の通りで、投稿期限（11月末）、刊行時期（翌年5月末）などは従来通りです。